

五月三十一日(第二次會見協定案提示)

一、午前八時四十五分日本側入場

二、午前八時五十五分中國側到着

三、午前九時着席

四、岡村代表説明及關東軍ヨリノ協定案提示  
軍ノ提出セル停戰協定文別紙第三ノ如シ

### 岡村代表説明

一、今次締結セントスル協定ハ所謂停戰協定ニシテ眞  
接軍事ニ關係ナキ政治的問題ニハ一切觸ルルコト  
ナシ

0114

97-36

ニ從テ茲ニ提示セル協定案ノ内容ハ純然タル軍事的  
事項ニ止マリ曩ニ永津中佐カ貴方委員長代理  
ト取り換ハシタル覺書ヲ基礎トシ之ヲ完全ナラシ  
ムル爲一部字句ヲ修正シ且若干必須事項ヲ補足  
セルモノナリ

三以上ノ如キヲ以テ本協定案ノ骨子ハ既ニ雙方意見  
ノ一致ヲ見タルモノナルニ由リ盡クニ圓滿ニ解決スヘ  
キヲ確信シテ疑ハサル所ナルモ貴方ニ於テ一應檢  
討セラレ質疑アラハ應答スルコトスヘシ貴方ノ檢  
討爲一時休憩ス

再開ハ選クモ本三十一日午前十時トスヘク貴方ノ準

0115

備完了、直ニ通知セラレタシ

四、追テ本協定案ハ最後のノモニシテ變更ノ餘地ナ

キコトヲ豫メ承知セラレ度

五、中國側態度代表挨拶

協定前ニ中國側ハ誠意ヲ以テ協定ニ向フヘク忌憚

ナキ中國側ノ意見ヲ述フルコト次ノ如シ

貴代表所説明的是很有誠意、我們很滿意現在所接的協定案の内容、我們研究後答覆中國方面很誠懇的、我們的誠意必能得貴方的諒解的、現在有我們方面的意見書、交貴方、請各位代表研究研究

0116

99-37

譯文

貴代表ノ云ハルル所是ニ誠意アリ吾等ハ非常ニ満足ナリ、現在折衝ヒル協定案ノ内容ニ關シテハ研究ノ後回答スヘシ支那側ハ非常ナル誠意ヲ以テ懇談スルモノニシテ吾等、誠意ハ必ス貴國側ニ於テモ諒解セラルルナラン、今我方ノ有スル意見ヲ貴方ニ手交ス各代表研究サレシ事ヲ乞フ

六中國側提案意見見別紙第四ノ如シ  
本次停戰協定ノ性質ニ鑑ミ關東軍ヨリ提示セル協定案ニ對シ中國側ノ諾否ヲ實ハ足ル故ニ右中國側提案ノ如キ回答ノ限リニアラス調印後ノ懇心

0117

談ニ讓ルコトトナシ單ニ受領シ置ケリ

七、午前九時ニ十分休憩

八、午前十時三十分ニ至ルモ中國側ヨリ再開ノ通知ナシ

仍テ永津中佐ヲシテ先方ノ情況ヲ探知セシメシ

ニ中國側ニ左ノ三点ノ希望アリ、其ノ一、永津中佐

ニ於テ問題ニアラスト一蹴ス

ノ飛行機ノ飛來ハ無知ノ人民ヲ停戦カ再戦カト迷

ハスヲ以テ適宜制限セラレ度

二、協定内長城ノ線トハ熱河省外遠ク西方ノ長城

ヲモ意味スルヤ

三、協定線以内ニ警告カヲ以テ處理シ能ハサル武

力團體發生セル時ハ中國軍隊ハ制限線ヲ超エ  
テ處理スルコトヲ認メラレ度是ニ於テ再ヒ永津中佐  
ヲ中國側休慰室ニ派シ是等質疑事項ニ就テハ  
調印後懇談ヲ行フハ用意アル旨ヲ通告セシメ  
シニ中國側ハ満足シ再開ノ趣ヒトナル  
九午前十時五十七分再開(第二回、續々)(調印)  
云岡村代表開會、挨拶  
ニ熊代表

貴代表提出ノ協定文大體了承ス中國側トシテ  
二三考慮ヲ煩シ度キ点アルモ調印後ハ譲リ度  
ニ岡村代表

0119

主要部分ハ既ニ諒解ヲ了セリ先刻提出セラレシ  
中國側ノ意見ハ協定外ニ属スヘキモノニシテ先ツ調  
印ヲ了シ後刻ノ懇談ニ譲ルコトト致度

一三 中國側異存ナシ

一四 午前十一時十分無事調印ヲ了ス

一五 喜多大佐

新聞發表ハ次ノ如クシ度

ノ發表内容ハ第一案(協定本文其儘)又ハ第二

案

第一五項参照)ノ一ニ據リ徹ニ添加又ハ削除

スルヲ得ス

2. 發表時刻ハ午後四時東京ハ時差ハ關係  
上午後五時トス

3. 協定成文發表後兩國代表ハ簡單ナル所見ヲ發  
表スルコトヲ得

又、中國側ハ協定第四項全部、削除ヲ要求セル  
ニ結局原案通り決定ス發表案左、如シ

關東軍司令官ハ五月二十五日密雲ニ於テ何雁心欽  
ヨリ其軍使タル參謀徐燕謀ヲ以テセル正式停戰  
提議ヲ受理セリ

右ニ基キ關東軍代表陸軍少將岡村關東軍  
參謀副長ハ塘沽ニ於テ北支中國軍代表陸軍

0121

中將熊斌ト五月三十日午前土時十分左記要旨  
ノ停戰協定ヲ締結シ調印シ了セリ

左記

一、中國軍ハ速ニ延慶、昌平、高麗營、順義、通州、  
杏河、寶坻、林亭口、寧河、蘆台ヲ通スル線以西及以  
南ノ地域ニ一律ニ撤退シ爾後同線ヲ越エテ前進ス  
又一切ノ挑戰、攪亂行爲ヲ行フコトナシ  
二、日本軍ハ第一項ノ實行ヲ確認スル爲隨時飛  
行機及其他ノ方法ニ依リ之ヲ觀察ス  
中國側ハ之ニ對シ保護及諸般ノ便宜ヲ與フル  
モトス

三、日本軍ハ第一項ニ示ス規定ヲ中國軍カ遵守スル  
コトヲ確認スルニ於テハ前記中國軍ノ撤退線ヲ  
超エテ追撃ヲ續行スルコトナク自主的ニ概ネ長  
城ノ線ニ歸還ス

四、長城線以南ニシテ第一項ニ示ス線以北及以東ノ  
地域内ニ於ケル治安維持ハ中國側警察機關之  
ニ任ス

五、本協定ハ調印ト共ニ効力ヲ發生スルモノトス

六、岡村代表午後二時懇談會ヲ開クヘキヲ宣シ午後  
土野三十五分散會

0123

別紙第三

停戦ニ關スル協定

關東軍司令官元帥武藤信義ハ昭和八年五月  
五月二十五日密雲ニ於テ國民政府軍事委員會北  
平分會代理委員長何應欽ヨリ共使同分會日參  
謀徐燕謀ヲ以テセル正式停戦提議ヲ受理セリ  
右ニ依リ關東軍司令官元帥武藤信義ヨリ停戦  
協定ニ關スル全權ヲ委任セラレタル同軍代表關  
東軍參謀副長陸軍少將岡村寧次ハ塘沽ニ於  
テ國民政府軍事委員會北平分會代理委員長  
何應欽ヨリ停戦協定ニ關スル全權ヲ委任セラレタル

北支中國軍代表北平分會總參議陸軍中將熊斌ト左ノ停戰協定ヲ締結セリ

一、中國軍ハ速ニ延慶、昌平、高麗營、順義、通州、香河、寶坻、林亭口、寧河、蘆台ヲ邇スル線以西及以南ノ地區ニ一律ニ撤退シ爾後同線ヲ超エテ前進セス又一切ノ挑戰攪亂行為ヲ行フコトナシ

二、日本軍ハ第一項ノ實行ヲ確認スルニ爲隨時飛行機及其他ノ方法ニ依リ之ヲ觀察ス

中國側ハ之ニ對シ保護及諸般ノ便宜ヲ與フルモ

ノトス 三、日本軍ハ第一項ニ示ス規定ヲ中國軍力整正セシメテ確認スルニ於テハ前記中國軍ノ撤退線ヲ超テ多數ノ砲撃ヲ續行スルコトヲ自主的ニ概ネ

四、長城線以南ニシテ第一項ニ示ス線以北及以東ノ

地域内ニ於ケル治安維持ハ中國側警察機關之ニ  
任ス右警察機關ノ爲ニ日本軍ノ感情ヲ刺戟  
スルカ如キ武力團體ヲ用フルコトナシ

五、本協定ハ調印ト共ニ効力ヲ發生スルモノトス  
右證據トシテ兩代表ハ茲ニ記名調印スルモノナリ

昭和八年五月三十一日

關東軍代表  
北支中國軍代表

別紙第四

中國軍代表停戰協定意見書 (第一號)

一、東亞ノ和平ヲ恢復シ中日兩國關係ヲ改善スル爲  
停戰協定ヲ討論シ互ニ誠ヲ以テ相會目シ相諒  
解シ前途ノ障礙ヲ一掃シ此ノ目的ノ容易ニ達成  
センコトヲ希望ス

二、中國軍隊ハ既ニ約定ノ線ニ撤シ更ニ後方ニ撤セル  
ハ中國軍ノ誠意ヲ表示スルニ足ル今後凡テ避ケ  
得ハヤ中日兩方ノ衝突ニ就テハ可能ノ範圍内ニ  
於テ尚出來得ルタケ盡カスハシ

三、貴國軍ハ以上ノ事實ヲ諒解シ誠意ノ表示ヲ

0127

92-43

ナシ戰區ヲ早ク原狀ニ恢復シ和平ノ基礎ヲ立テン  
事ヲ希望ス

四、貴國軍ハ以上ノ諒解ニ依リ撤回後該區域内ニ於テ  
恣シ治安ヲ妨得スル武力ヲ組織アリテ中國軍隊必  
要ノ處置ヲ爲ス時貴國軍ハ之ニ依リ諒解ヲ引キ  
起ササラン事ヲ希望ス

最高全權代表

熊

斌

中華民國三十三年五月三日

0128

第三次會見（懇談會）

午後二時開會

熊代表、今次双方ノ誠意ニ依リ無事調印ラリシノ  
ハ將來ノ東亞ノ和平ノ爲誠ニ喜ハシメ次第ニシテ  
將來尚一層ノ誠意ノ現實ニ行クラ希望シ、  
テ中國側ノ希望ヲ申述フルニ付御了承アリ度、  
其第一トシテ協定第四項中、長城以南ノ地區ニシテ  
制限線以北並以东ノ地區ニ警察力ヲ以テ制御  
シ難キ武装團體現出スル時ハ中國軍隊ヲ以テ  
之ヲ處理スルコトニ致シ度、右處理後中國軍隊ハ  
適宜制限線内ニ後退ス

(別紙協定節略第一項参照)

岡村代表此ノ件ハ重大ナル事項ナルニツキ出發豫メ  
軍司令官ヨリ新京ニ於テ指示ヲ受ケタリ、本件  
ハ明ラカニ協定第一項ニ違反ス責、代表ノ憂慮スル  
現在ノ事實ハ丁強軍ノ存在ナルハシ、丁強軍ハ  
元來日滿兩國ニ何等關係ナク寧ロ日本軍ニ  
敵對セル鄭桂林軍其大部ヲ占メアリ唯反國民  
黨ヲ標榜シアリテ日滿軍ニ反意ヲ有セサルヲ  
以テ日本軍ハ其行動ヲ默認スルノミ、若シ北支  
ニ我等ノ希望スル親滿親日ノ新政權樹立セラルル  
ニ於テハ丁強軍ヲ其勢力下ニ入レ他方面ニ移動

四三

0130

セシメテハ如何日本軍ハ何時ニモ斡旋ノ勞ヲ採ルヘシ

熊代表、又耶ノ事情ハ貴代表熟知ノ如ク複雑ヲ極メアリ、單ニ丁強軍ミナス各種反動分子ハ右地域内ニ於テ蜂起跳梁スヘキヲ以テ勢ヒ中國軍隊ヲ以テ討伐セサルヘカラサルニ至ラン（馮玉祥ヲ恐レルモノノ如シ）

又中間地域ニ右様ノ團體ヲ生シ日本軍ニ挑戰シ且中國側警察方ニテ處理スヘキ方ナキ時ハ結局中國側ノ責任トナルヘシ

岡村代表、貴代表ノ申出テノ如ク憂慮アル狀況現出

セハ又本協定ノ精神ニ基キ本協定ト別個ノ交渉ニヨリ處理シテハ如何當方ハ飽ク迄誠意ヲ以テ之ニ當ラン

喜多大佐、將來右様ノ問題起ル時ハ其程度双方協議ノ上誠意ヲ以テ解決スル如クシテハ如何  
永津中佐、兩方ニテ憂慮スルナラハ結局兩方共中間地域ニ軍隊ヲ出シ惹起テ全ク今回ノ協定ノ根本精神ニ背戾スルコトナルヘシ

岡村代表、例ヘハ共產党ヲ右区域内ニ蜂起スルト共是レ双方ノ敵ナリ故ニ此ノ如キ場合日本側カ誠意ナク之カ處理ニ反對スル等ノ事ハ絶對

無カルヘシ故ニ其都度誠意ヲ以テ相互交渉シテハ如何

永津中佐、若シ中國側軍隊ニテ處理スルトセハ協定違反トナルカ故ニ日本側軍隊監視下ニ行動セサルヘカラサルニ到リ結局其負擔ハ各ニ分ノ一トナル故ニ寧ロ其都度誠意ヲ以テ交渉スルコトニスルヲ可トセン

熊代表、馮玉祥ノ如キモノニ對シ中國側ノ立場ハ甚シク困難トナルヘシ

岡村代表、馮玉祥軍カ右地域内ニ現出スルトモ日本側ハ之ヲ中國軍隊トシ協定違反ト認メ遠慮ナク

之ヲ攻撃スヘシ

永津中佐、若シ右地域内ノモヲ中國側軍隊カ  
攻撃スル時ハ日本側ノ方面ニ逃走シ結局日本軍  
隊ヲ誘發スルコトナル、協定又ハ覺書等ノ形式  
ニ拘泥腐心シ協定ノ根本精神ニ背戾スルカ如  
キ觀念ヲ有シ在ルハ不思議ニ耐エス

錢委員、討伐ノ方法ハ種々アリ快スシモ日本側ノ方  
面ニ逃クルコトナク他ノ手段アルヘシ御諒解アリ度  
岡村代表、協定ニ除外例ヲ設クルコトハ絶對賛同シ難  
シ

我カズフ中國軍トハ何應欽ノ中國軍タルト又其

反對側ノ中國軍タルトヲ問ハス一律ニ貴國軍隊  
ヲ意味スルモノナリ

熊代表、主旨ハヨク判レリ別紙第ニ如キ覺書ヲ交  
換スルコトニシテハ如何

即チ右様ノ狀況ニ於テハ日本側ト相談シテ中  
國側ニテ處理スル如クシテハ如何

岡村代表、日本側ハ協定第一項ニ基キ中間地域内ニ  
絶對中國軍隊ノ存在ヲ許ササル精神ハ飽ク  
迄之ヲ保持ス

若シ中國側ノ意見ノ如クスル時ハ右地域内ニ  
排日団体蜂起スルニ際シ日本軍ハ思フ如ク出

兵シテ行動スルコトヲ許容スルコトナル如何  
態代表、主旨ハヨク判リタリ

ニ討論容易ニ盡キサルヲ以テ休憩ヲ爲スヲ有利ト  
判断シ中國側ノ同意ヲ得タル後三時ニ十八分休憩  
ニ入ル

三、休憩間支那側ト永津中佐連<sup>絡</sup>ノ結果支那側ノ真  
意ハ中間地域ノ主權ノ存在ヲ明ニシ且對馮玉祥  
作戰ノ自由ヲ確得セントスルニアルヲ知リ得タルヲ  
以テ後者ハ協定ノ成文ニ從ヒ中國軍隊ノ進入ハ絶對  
ニ許シ得サルモ中國側ノ主權ノ存在ハ之ヲ尊重  
スルノ意味ヲ別紙覺書ヲ作成（撤兵地域ノ名稱ヲ

0136

用ヒ且協定ノ附属文書若ハ協定ノ除外例ノ形  
式ヲ避ケ覺書トナスシ之ヲ以テ強壓的ニ出ツル  
有利ニシテ且承認セシメ得ヘシト判斷セルヲ以テ右  
覺書ノ内容ヲ永津中佐ヲシテ支那側ニ通セシム  
四三時四拾五分再開

熊代表、我等ハ決シテ權謀ヲ廻ラシ在ルモノハ非ス  
シテ誠意ヲ以テ交渉シ在リ此ノ点篤ト御了承  
ヲ願フ

岡村代表、當方モ亦然リ

熊代表、大ナル問題ニ非サルモ制限線内ニ日本軍  
ノ飛行機ノ飛來スルコトハ無智ノ人民ヲシテ徒

ラニ恐怖ノ念ニ驅ラレシムルヲ以テ無斷不意ニ偵察  
飛行ヲ實施セザランコトヲ切望ス

岡村代表、十分考慮スヘシ

熊代表、中國軍隊カ協定線ヨリ若シク後退シ  
在ル地点ヨリ協定線迄前進スルコト無キハ非ス  
此際日本側ノ誤解ナキヲ望ム

岡村代表、了承

岡村代表、貴方ハ以上三項ヲ覺書ト爲ス内案ヲ  
有ヒラルルカ如キモ（協定節略案参照）第三、第三  
項ハ其必要ヲ認メス第一項ハ覺書トスモ可ナリ  
熊代表、第一項ノミヲ可ナルヲ以テ覺書トセラシ

兩者意見一致シ午後四時四十五分右覺書ニ調印シ  
終ル

岡村代表、當方ヨリノ希望ヲ述フ

現在熱河省豊寧西南方地區ニ貴軍騎兵第二  
師進入シ在リ速ニ撤退ヲ望ム

熊代表、熱河方面細部ノ配置ハ知ラス調査ノ上至急  
處置スヘシ

岡村代表、現在平津一帯ニ約四十師ノ貴軍アリ殊ニ  
最モ日本軍ト感情面白カラサル中央軍多數存  
在シ在リ速ニ何トカ處理セラレタシ東北軍中  
ニモ同様ノモノアリ

97-89

0139

熊代表、支那ノ事情ハ複雑極ルモノアリ日本軍

ノ撤退ニ伴ヒ爲シ得ル限りノ努力ヲ拂フモ苦

表御諒解アリ度、而シテ減兵ハ貴方ノ要望ノミ

ナラス當方自ラモ要望スル所ナリ

岡村代表、白河マロニ多ク陣地及守兵アリ右ハ條約

違反テモアリ且感情上面白カラサル事象ナレハ早

々撤収アリ度

熊代表、速ニ撤去スヘシ

永津中佐、條約協定トカノ成文ニ拘泥スレコトナク

誠意ヲ以テ實行スル如クシ度

張委員、白河河ロノモノハ千尋ノ忠カ日本軍ノ上陸

0140

ヲ恐レテ實施シタルモノニシテ今協定締結後ハ無意味ナリ速ニ實行セン

岡村代表、吾人軍人ノ交渉スヘキコトニ非サルモ兩國民間ノ感情ヲ疎隔スル根本ノ原因ハ排日ノ風潮ナリ排日ニ關シテハ政治的交渉ノ項目ニテ本交渉トハ別個ナルモ黃郛氏ニ於テ速ニ第二次ノ交渉ヲ開キ根本ノ禍根ヲ剪除セラルル如ク貴代表ニヲ斡旋セラレンコトヲ切望ス

熊代表、我々軍人ノ交渉スヘキ事項ニ非サルモ個々トシテ全然同意ナリ然ルヘク努力スヘシ又中國ハ誠意ヲ以テ協定ヲ遵守スヘキニツキ日本側モ亦

速ニ協定ノ位置ニ撤退セラレシコトヲ切望ス

五、一同乾盃

岡村代表挨拶

熊代表挨拶

六、午後四時十五分散會

六月一日以降

五月三十一日正式調印シ了セル後第一線兵團ヨリノ  
報告ニ依リ支那軍ノ一部カ尙撤退線以北ニ出入スルモ  
ノアルヲ知り岡村代表並永津中佐宛支那側ニ嚴重  
抗議セシムル所アリ其後支那側ハ其ノ軍隊ニ對シ嚴  
命シ協定條項ヲ犯スコトナキヲ戒タルモノノ如ク直ニ

ニ其撤退線ニ後退シ爾後協定ヲ犯スモノヲ認メス  
乃チ軍ハ其ノ出所進退ノ公正ナルヲ中外ニ闡明スヘ  
クニ日軍司令官ノ名ヲ以テ別紙ノ如ク聲明書ヲ  
發表スルト共ニ隷下將兵一同ニ訓示スル所アリ且北  
支作戰部隊主力ノ歸還ニ關スル命令ヲ下達ス

五  
▽

32-51

0143

聲

明

東洋ノ和平ハ日滿支三國ノ提携親和ヲ基調  
トナス然ルニ一部支人ハ反テ抗日反滿ヲ唱ヘ其軍  
隊ハ我ニ挑戰シテ滿洲ノ國疆ヲ脅カセリ仍テ軍ハ  
日滿議定書ノ示ス所ニ基キ長城南側地區ニ作戰  
シテ反抗軍閥ニ鐵鎚ヲ加ヘ追撃長驅將ニ平津  
ノ牙城ニ逼ラントスルマ彼ハ周章其軍使ヲ我軍門ニ  
致シテ停戰ヲ請ヘリ

軍ノ行動ハ由來公明嚴正ニシテ一點ノ野望タモ包  
藏スルコトナシ況ハシマ無事ノ民ヲ戰禍ニ苦メ千古ノ

97-52

0144

史蹟ヲ兵燹ニ失フカ如キハ元ヨリ其欲セサル所今  
彼ハ誠意ヲ披瀝シ既往ノ非違ヲ改メンコトヲ誓言フ  
仍テ軍ハ武士道的情誼ニ依リテ其ノミテ容レ之ヲ  
率ヒテ東洋永遠ノ平和ニ貢獻スルノ機アルハミヲ  
庶幾シ彼ト停戦ニ關スル協定ヲ締結セリ而シテ  
彼ニシテ協定ノ遵守確實ナルニ於テハ我ハ乃チ  
旅ヲ收メテ概ネ長城ノ線ニ歸還セントス  
若シ夫レ彼ニシテ協定ヲ破リ正義ヲ冒スカ如キ  
コトアラハ我ニハ自ラ斷平之ヲ膺懲スルノ備アリ  
右聲明ス

0145

訓示

隸下將兵一同、建闘宜シキヲ待量ニ畏クモ優渥  
ナル勅語ヲ下賜セラレ今又御沙汰茲令旨ヲ  
拜シ本職諸士ト其ノ譽ヲ共ニス光榮何ソ加ヘン今  
マ敵ハ萬策竭キテ停戦ヲ我軍門ニ乞フ、我乃チ之  
ヲ容レテ停戦ニ關スル協定ヲ締結シ皇軍青史ニ更  
ニ一段ノ光彩ヲ添ヘタリ此ノ如ク敵ニシテ誠意協  
定ヲ遵守スルニ於テハ我亦敢テ之ヲ窮追スルノ  
要ナク乃チ旅ヲ收メ概ネ滿支國境線ニ歸還  
セントス

夫レ平津ノ牙城ヲ指呼ノ間ニ睨ミ第一線將兵ノ意

92-13

0146

氣將ニ衝天ノ概アルノ時而モ志逸長ヘニ歸ラサル  
選々戰友ノ羶血ヲ貽シテ師ヲ旋ス貞ニ斷腸ノ思  
ナキ能ハス然リト雖今次長城以南地域ニ於テ軍  
ノ作戰ハ亂ニ聲咽セル如ク純正公明ナル動因ニ發  
シ其目的一ニ敵ノ挑戰的意志ヲ挫折シ以テ滿洲  
國西南境ノ安寧ヲ確保スルニ在リシハ諸士ノ克ク  
熟知スル所而シテ今々其目的ヲ完全ニ達成ス更ニ  
戰ヲ續行シ無事ノ民ヲ戰禍ニ苦メ千古ノ史蹟  
ヲ兵燹ニ失フハ軍ノ元ヨリ欲セサル所茲ニ諸士勞  
苦ノ結晶ト崇高ナル犠牲トハ東洋永遠ノ平和ノ  
礎石タルヘキヲ思ヒ皇軍出所進退ノ公正ヲ中外ニ

宣揚セントス。是レ靜ニ彼ノ態度ヲ監視シツツ近  
ク軍ヲ旋サントスル所以ナリ。況ンヤ滿洲國內ニ  
於ケル治安恢復ノ完反ハ前途尚遼遠ニシテ諸士  
ノ努力ニ待ツモノ極メテ多ク一日ノ偷安ヲ許サス加  
之四圍ノ情勢ハ國防第一線ノ重責ニ在ル關東軍  
ノ作戰準備ノ完整特ニ軍隊訓練ノ精到ヲ要スル  
モノ洵ニ大ナルモノアルオヤ

諸士宜シク大局ニ達觀シ更ニ一段ノ緊張ヲ加ヘ心  
氣一轉欣然トシテ新任務ニ邁進センコトヲ期ス  
ヘシ

右訓示ス

昭和八年六月二日

關東軍司令官 元帥 武藤 信義

0149

別紙第五

協定節略

停戰協定已經雙方答訂為恢復東亞和平計自應確實履行但有應注意者如左

一、中日兩方履行協定第三第四兩項後該區域內如發見有妨碍治安之武力組織團體非警力所能制止者中國軍隊得為必要之處置事畢仍即撤回間於此點並不失協定之精神請日本軍諒解不可因此別起談會

二、中國軍當然依協定第一項無挑戰攪亂行

爲希望日本軍對於有激刺中國人民感情之  
一切行動亦竭力避免

三、中國軍隊已退至本協定第一項之遠後方有依  
本協定之規定略有移動時希望日本軍勿生  
談會

0151

別紙第六

覺

萬一撤兵地域ノ治安ヲ妨害スヘキ武力團體發生  
シ警察力ヲ以テ鎮壓シ得サル場合ニ双方協議  
ノ上是カ處置ヲ講ス

昭和八年五月三十日

關東軍代表  
中國軍代表

岡村寧次  
熊斌

五五

0152

122-56